

## 2018年度春季研究集会(早稲田大学)プログラム

最終版

10:15~ 10:30	開会式(第1会場(第1会議室))		
	第1会場(第1会議室)	第2会場(第2会議室)	第3会場(第3会議室)
10:30~ 11:00	河本穂馨(筑波大学大学院), 辻慶太(筑波大学) 公共図書館内の飲食可否に関する利用者の意識と利用実態及び図書館の周知方法		山田翔平(東京大学大学院) 大学図書館の蔵書の構成と学問領域の関連:経済学に着目して
11:00~ 11:30	松尾羽奈子(青山学院大学大学院) 公共図書館における高齢者サービスに関する研究:認定司書へのインタビューを元に	山中康行(桃山学院大学大学院) 日本図書館史における断絶と連続:文庫から図書館へ	橋詰秋子(慶應義塾大学大学院) 「著作」の粒度:大学図書館コレクションにおける全体部分関連とAggregates
11:30~ 12:00	松野南紗恵(明治大学大学院) 日本のヴァーチャルレファレンスに関する調査	前川和子(元大手前大学) F. チェニーにおける書誌, 『日本の参考図書解題』, 『日本の参考図書』などについての考察	飯尾健(京都大学大学院) 情報リテラシーの能力枠組みに関する研究:「高等教育のための情報リテラシー基準」の拡張に向けて
12:00~ 13:15	昼休み(1時間15分)		
	第1会場(第1会議室)	第2会場(第2会議室)	第3会場(第3会議室)
13:15~ 13:45	河西由美子(鶴見大学), 森袖衣(元鶴見大学) 幼稚園保護者の公共図書館児童サービスに対する認識に関する調査	谷口祥一(慶應義塾大学) IFLA Library Reference ModelとBIBFRAME 2.0の統合:マッピングからマージへ	上岡真紀子(帝京大学) 全学的教育改善プロジェクトにおける図書館員の役割:パデュー大学IMPACTプロジェクトを事例として
13:45~ 14:15	藤牧功太郎(新宿区役所) 苦情に対する公立図書館職員の意識とその特性に関する研究:「日本苦情白書」の質問紙を用いた新宿区立図書館の職員意識調査の事例から	望月有希子(筑波大学), 逸村裕(筑波大学), 江前敏晴(筑波大学) 図書館蔵書の酸性化に対する大気汚染の影響:慶應義塾大学と筑波大学の図書館蔵書の酸性状態の比較	
14:15~ 14:45	葉袋秀樹(元筑波大学) 「公立図書館の最低基準」(1950年)に関する議論の特徴	河村俊太郎(愛知淑徳大学) 蔵書の分析による東京帝国大学工学部電気工学科図書室の教育, 研究における位置付け	斎藤純(筑波大学大学院) 学校図書館の選書の現状と選書に対する意識:中学校の学校図書館担当者へのインタビュー調査をもとに
14:45~ 15:15	桑原芳哉(尚綱大学) 日本の公共図書館は何館か:統計調査の差異に関する考察	畔田暁子(明星大学) 中学校美術科における鑑賞対象を日本十進分類法の分類体系に位置づける試み	根本彰(慶應義塾大学) 戦後教育学の出発と学校図書館の関係
15:15~ 15:30	休憩(15分)		
15:30~ 16:00	佐藤翔(同志社大学), 池本実緒(同志社大学), 小池敬大(同志社大学), 松原早菜(同志社大学), 山中飛鳥(同志社大学), 河田姫碧(同志社大学), 宮崎直子(同志社大学), 永野ゆりえ(同志社大学), 永尾梨乃(同志社大学) 公共図書館内における利用者の注視行動の傾向と図書館デザインの影響	磯井純充(森記念財団) マイクロ・ライブラリーの研究:まちライブラリー, 情報ステーション, 恵庭まちじゅう図書館を通じた考察	須藤崇夫(埼玉県立岩槻商業高等学校), 平久江祐司(筑波大学) 高等学校図書館の施設・設備の情報化の現状と課題
16:00~ 16:30	磯部ゆき江(公社 日本図書館協会), 佐藤正恵(千葉県済生会習志野病院), 三輪眞木子(放送大学) 公共図書館のがん情報サービスの課題:提供する資料・情報の視点から	山本順一(桃山学院大学), 寺下由美子(非正規司書) 非正規司書の意識と実態に関する研究:ワークショップを通じて明らかにできたこと	安形輝(亜細亜大学), 上田修一(元慶應義塾大学) 日本における電子書籍化の現状:国立国会図書館所蔵資料を対象とした電子書籍化率の調査
16:30~ 17:00	桂まに子(京都女子大学), 須賀千絵(実践女子大学), 池谷のぞみ(慶應義塾大学), 田村俊作(元慶應義塾大学), 三輪眞木子(放送大学), 八巻知香子(国立がんセンター), 松本直樹(慶應義塾大学) 患者支援機能から見た患者図書室の多様性	—	原田隆史(同志社大学), 佐藤翔(同志社大学) 電車内における情報メディア利用

\* 斜線のコマは発表辞退を表します。

\* 所属等の表示は, 教職員(常勤/非常勤)・院生・学部生等を問わず, 「機関名」(「大学名」)等のみとしてあります。